2022 年度後期 START プログラム　事後レポート

所属学部・学科・学年	医学部保健学科看護学専攻・2 年

（1）START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか
実際に現地に行く事で、インターネット上では知り得ない課題や発見が多くありました。私たち日本人が考えるアフリカの課題とアフリカに住む人々が考える課題は全てが同じでは無く、交流して初めて分かり合うことが出来ました。日本に留まって、アフリカの抱える問題を解決は出来ないし、アフリカを訪問しても現地の人と生活や制度についての深い話をしなければ問題を取り上げることも出来ないです。アフリカの人はどんな問題を抱えていて、どんな支援･制度が必要なのかを自分の目でしっかりと確かめることの重要性を学びました。 　インターネットの情報や自分の価値観だけで物事を決めるのでは無く、その情報に対して疑い真偽を確かめるのは自分自身であると思いました。インターネットの情報は正しいものもありすが、それはデータや統計が殆どで、その国が抱える問題や課題、生活する人々の考えは分からないことがだらけです。現地に行き、現地の学生と交流、ディスカッションを行い、日本と異なる文化や環境を体験して、自分の身を持って知ることが非常に重要だと思います。 　また、偏見や先入観は多様性や複数他者理解を行う為には減らさなければいけないことも学びました。アフリカという日本とは全く異なる地域の人々と交流する事はプログラム開始前まで不安しかありませんでした。というのも、日本にいるとアフリカの人を見ることすら珍しく、ましてや話す機会はありませんでした。自分の中でアフリカは発展途上であり、生活環境や医療体制が整っていない地域というイメージが強く、その先入観のままザンビアとエジプトを訪問していました。しかし、現地の人の生活を見ると自分よ想像よりもネット環境や生活環境は整っており、不安は直ぐに消えました。さらに、相手の属する集団やグループに基づいた偏見を当てはめるのではなく、一人ひとりを深く知ろうとする姿勢が必要でした。 　人間は自分と異なる人種、性別、宗教を信仰する人と交流した事がなければ、その「違い」を持つ人に対して「無意識の偏見」を持つ傾向があります。「無意識の偏見」は多様性や複数他者理解にとって大きな妨害になるため、それを出来るだけ減らして様々な人との交流を経験する事が大切だと分かりました。今後は無意識の偏見による判断を自覚したら、一息おいて「なぜそう考えたのか」「どう考えるべきなのか」と自問し明確な答えを見つけ出し、その偏見を改めていきたいです。

（2）プログラム内容についての全体的な感想
このプログラム開始前は、アフリカに対して「発展途上国で日本より経済や人々の生活が遅れていて、先進国として助けなければいけない」と考えていました。しかし、JICA 訪問から発展途上国の問題は先進国の問題であることに初めて気付かされました。先進国が発展途上国を助けることが当たり前では無く、お互いが助け合い協力する事が重要だと感じました。 ザンビア大学とマラウイ大学の学生と 4 日間程度一緒に行動した事で、時間の大切さを感じました。日本人は時間をきっちり守ることが当たり前だが他国の人は時間にルーズで、予定通りにいかないことが歯痒い時も多かったです。その歯痒さは言い換えてみれば、「異文化理解」に直結するもので相手の文化を理解する為には必要な事だと思いました。話を理解する為に語学力は勿論必要ですが、それよりも国籍、年齢、性別、宗教や文化的背景の異なる人としっかり話をしてお互いを理解する事が多様性において一番大切だと、このプログラムを通して感じました。互いの違いを理解した上で、相手を尊重し、共に行動できる姿勢を持つ事がグローバルな人材には必要です。日本という単一民族国だけの学習では得ることの出来ない、複数他者との協働によってコンピテンシーが高まりました。自分の価値観を持つことは大事ですが、相手の価値観も尊重し相手にも自分のことを理解してもらうことが多様なコミュニティで重要だと思います。 今回のプログラムでの自分の反省点は二つあります。 まず一つ目は、事前準備として訪れる国の観光本は読んでいたのですが、自分の分野に関わらずその国が抱える問題や課題を大まかにでも調べておけば良かったと思います。現地学生との交流や JICA の方のお話を聴いた時に自分のアイデアが本当にその土地・人にとって有効なものなのか、自信が持てず自分の意見を発表する事がなかなか出来なかったです。 二つ目は、コミュニケーションについてで、現地学生との交流では話しかけてもらったり質問してもらう事を待っているばかりで、自分から何を言えば良いのか分からず声を掛けることが難しかったです。基本的なコミュニケーション方法や質問を考えておくことで、相手ともスムーズに打ち解けることが出来ると思います。自分の英語力の無さによる言葉の壁や文化の壁を感じ、上手くコミュニケーションをとることが出来ませんでした。コミュニケーションは言葉のキャッチボールが理想ですが、私の場合、殆ど受身になってしまい、交流というより情報収集としての時間が多かったです。

（3）今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス
自分の拙い英語でも、現地の人や大学生は何かを話しかければ嫌な顔一つせずしっかり受け答えしてくれましたし、自分にとっても英語で話しかけることが大きな自信になりました。私の場合、質問を 1 すると答えが 10 返ってくることばかりでした。10 の答えに対する自分の意見を少しでも言えるように、使うと予想される単語や使い方を予習しておくと良いと思います。 START プログラムの目的は国際交流や長期留学へのきっかけを作る事ですが、事前に訪問国の実状イメージやアイデアを持っておけば、更に有意義な時間を過ごすことが出来たと思います。

2022 年度後期 START プログラム　事後レポート

所属学部・学科・学年	工学部第 1 類輸送システムプログラム　3 年

（1）START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか

＜持って行った課題＞

1. アフリカの医療福祉問題と私に何ができるか
2. 国際的な働き方とそのやりがいや役割
3. 複数他者の理解と上手な付き合い方

＜課題についての学び、どう活かすか＞

1. 病院等で日本から支援された機会を見学した。そこで、機械の使い方がわからず使われないまま放置されていたり、本当に必要なものが無かったりという残念な現実を目にした。そこから機械や設備の支援だけでは不十分で、現地に赴き使い方を教えたり、ユニバーサルデザインを意識したものづくりをすることが必要だと感じた。

2. JAICA 職員の方の話を聞き、企業に勤めていたけど自分一人で成し遂げられることの大きいアフリカに来たという話が印象的だった。JAICA での働き方はベンチャー企業に似ているなと感じ自分の将来的な働き方について考えてみた。私もいずれは就職をする上でベンチャー企業か大企業で悩むと思う。大企業のように既成の枠の中で安定した生活を過ごすのか、はたまたベンチャー企業で自分の力で 1 から作り上げていくのか。後者の方が自分の成長度は大きいように感じるし、行動的な自分に合っているのかもしれないと思った。そういう意味では国際的な働き方も向いているかもしれないと思った。JAICA のような国際機関だけではなく、一般企業でも海外勤務になることも多いと思う。この留学のおかげで、そのような働き方に対しても「やっていけるだろうという自信」がついた。

3. 「知ろうとすること」が大事だと感じた。
   私はザンビア・マラウィ・エジプトについて全くの無知だったため事前に歴史やその国抱える課題を調べた。モノカルチャー経済や雇用、医療のことなど。しかし実際足を運んで見つかった課題は別の課題だったりした。（例えば、教育のカリキュラムと先生の連携や学習到達レベルが低く進学できない子たちの存在、ビジネスとして機能しない仕事で生活しようとしている人たちの存在等）どちらも正しい。そして

どちらも自分から知ろうとしないと、現地に行かないとわからないことだ。
また、「自分から関わろうとすること」も大事だと感じた。
これまでの私は、日本で知らない人に話しかけたりはしなかった。
しかし初めて英語を使って会話するのが楽しくて誰彼構わず”Hello!”と話しかけた。
するとほとんどの人が笑顔で気さくに話してくれた。
帰国してから、アフリカから広大に来ている留学生にも話しかけた。
結果は自分が留学していた時と同じ、すぐ笑顔になってくれた。
「自分から関わろうとする、行動すること」はどこでも役に立つなと思った。対外国人だけに限った話ではない。このことは今後も継続していき、自分の武器にしたいと思った。

＜その他学んだこと＞
・この 2 週間で知らない世界をたくさん見る機会があった。また一緒に参加した学生はかなり教養があり、宗教のこと、文化のこと、政治のことを教えてもらった。これまで私はなんて狭い世界の中で生きてきたのかと思いもっと世界を、世の中を知りたいと思い帰国後読書をするようになった。

・「これまでの選択は、自助努力で全て成功え」という吉田先生からの言葉は今後の生き方に活かしていこうと思った。吉田先生、桑山先生貴重なお話をありがとうございました。非常に為になるお話でした。

（2）プログラム内容についての全体的な感想

数多くの場所を訪問して、お話を聞いたり意見交換などで交流させていただき、非常に貴重な経験をさせていただきました。この経験は何らかの形で必ず自分の人生に役立つことは間違いありません。事前準備を含め関わっていくださった先生方、本当にありがとうございました。

今後改善すると更に良くなると思った点が 2 つあります。
1 つ目は、スケジュールや学習内容の曖昧さです。
数多くの場所に他大学の人とともに訪れるのはかなり変則的で難しかったことと思います。JAICA の方や現地の大学関係の方々が僕たちに何を伝えるべきか考えている時間がありました。準備段階からもっと詳細まで決めていれば、現地の方や僕たちも事前準備がかなりしやすくなりより深いことまで学べると思いました。

2 つ目は、夜の安全面についてです。
エジプトで夜お土産を買いに行くときはスマホも数人しか使えない状態でほぼ自由行動

だったのは何もなかったからいいけど少し怖いなと感じました。でも、いい思い出だし、一人旅ではしない様な貴重な経験だなって思います！

改善したらもっと良くなる点を挙げましたが、今回の留学は私にとって初めての海外経験でした。英語で会話して新しい世界と出会うのはすべてが新鮮で非常に貴重な機会でした。このメンバーで行けたことを非常に嬉しく思います。本当にありがとうございました！！またどこかでお会いできるといいなと思います。

（3）今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス

＜事前準備＞

・留学行くって決まった日から、今から話す内容は英語でなんて言うんだろうという疑問を持ってメモしておくといいかもしれません。私は YouTube で「日常生活でよく使うフレーズ」等を勉強し、これを使ってみようみたいな感じで用意していきました。

・スマホの翻訳は現地では使えないこともあるので事前にダウンロードしておいた方がいいかもしれません。

・英語の勉強だけでなく、その国の歴史や文化的特徴などもしっかり学んでおくべきだと思います。（余裕があれば日本のことも）

・差別用語等についても最低限は学ぶべきだと思います。

　例えば、”ニガ”というのは黒人差別に当たります。従って、苦手や苦いなどは言ってはけません。

・スーツケースは大きい方が絶対良い。お土産買うので行きは余裕持って。

・持っていく荷物は最小限（胃腸薬等の常備薬は必須）、（服や下着は捨てれるものを持っていくといいかも）

・飛行機での移動が長いとスリッパがあるとかなり楽

＜現地で＞

・とにかく自分から話しかけることをオススメします！

　まずは「Hello! , Good Morning!」から。そうするとどんどん楽しくなってきてもっと話したくなります。話してみたら意外とパッションで通じるし何とかなりました。大事なのは行動力なのだと感じました。

・現地の人とご飯に行ったり、おすすめのお土産を聞くと話せる環境が作りやすかった。

・食べ物だけでなく食べ方等も聞いて一緒に食べるとより楽しめます！

・夜は危険なので一人で行動せず基本的にホテルにいた方が良いと思います。

・沢山写真を撮ったり、毎日の気づきを日記につけたらいい思い出。

・本当に貴重な機会だから後悔ないように体調管理をしっかりして全力で楽しむ！